

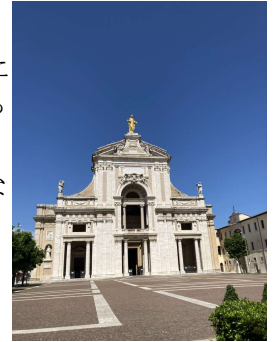
2020.05.10

5月10日復活節第五主日分(福音朗読：ヨハネ 14, 1-12)

わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。(ヨハネによる福音 14章 6節)。

今日の福音箇所の前半部、ヨハネ 14章 1-6節はよく葬儀の場で使われる。そのこともあってか、どうしても「亡くなって、イエスさまを通して、父である神さまのもとに行く」というイメージを持っていた。しかし、昨日の体験で、私たちは「死ななくても父である神さまのもとに行ける、むしろ既に行ったことがある」と思えるようになった。

5月4日から Fase2 になったので、移動がしやすくなった。昨日は運動したいということもあったので、自転車に乗ってアシジに向かった。初めて行ったときは道に迷い、チェーンが外れ・・・片道3時間近くかかってしまった。しかし、昨日は一度行ったことのある道を通ったので、地図を見る必要もなく1時間ぐらいで着いた(写真はアシジ駅前の「サンタ・マリア・デリ・アンジェリ教会」)。自転車をこぎながら思ったことを分かち合いたい。



(1) 私は既に父である神さまのもとに行ったことがある

私の思い込みでないことを願いたい。私は何回か？父である神さまのもとにいったことがあると思っている。しかし、私は時に父である神さまのもとから離れようとしたり、忘れようとしたりする。でも、そのときはまたイエスさまを通して、イエスさまに導かれて父である神さまのもとに行けば良いのではないだろうか。

最初にアシジに行ったときは、まっすぐ行けず時間もかかってしまった。でも、一度行ったら次はそんなに迷うことはない。同じように、一度イエスさまという地図を頼りに、父である神さまの元にいったら、たとえ離れてしまっても、「行き方」を知っているから、また戻ることはできる。

(2) どうやって行くのか

ガイドブックやインターネットで「アシジ」への行き方を知っても、実際に向かってみなければどの道を通っていくかを体感できない。同じように、ただ読み物として聖書を読むだけでは生きた経験にはならないと思う。生きた経験をどうやって手に入れるのか、自分一人では難しいと思う。

道であるイエスさまーイエスさまという地図ーをどうやって手に入れるのか。私は、共同体がそれを助けてくれると思う。もちろん、最終的には自分がイエスさまと出会うということが必要なのだが、それを経験している人との分かち合いを経ることで、「道であるイエスさま」を歩んでいけると私は思う。

公開ミサができなくなって、主に YouTube でミサに与ることはできる。でも、それだけではなくて、どうやってこの状況下であって「共同体」を作っていくかを考えるときなのかもしれない。難しく考えなくても良いと思う。ライングループや Zoom で誰かと何かを話すことで、十分共同体を作り上げている。それに、「共同体を作らなければならない」と思うと気が重くなる。「この話を誰かとしたい」という積極的な思いから、私たちは分かち合いを始めることができるのではないだろうか。宗教的なことに限らないだろう。日々の生活の中で起こる嬉しかったことや悲しかったこと・・・ただ自分の話をするだけではなく、相手の話も聞くことで、お互いに新しい道を歩むことができるだろう。でも、そのためには「この人なら」と思える人を見つけることから始めることも大切になってくるだろう。

お尻と足の筋肉痛という犠牲は払ったものの、「死ななくても父である神さまのもとに行ける、むしろ既に行ったことがある」という気づきを得られたことが、大きな喜びであった。そして私はこれを皆さんと分かち合いたい。この思いから下手くそな文章を書いてみた。